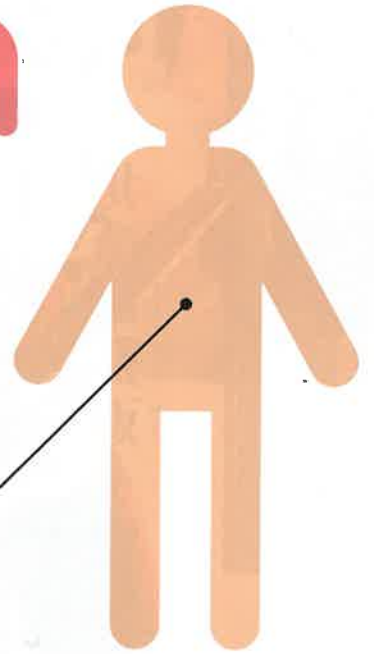


# 臓器のはなし



## セカンド オピニオン

今月は

### 不安、疑問を解消する 患者さんの権利

#### 専門医に 『第2の意見』を聞く

セカンドオピニオンとは、患者さんが納得のいく治療法を選択できるように、現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師に『第2の意見』を求めること。セカンドオピニオンでは足りないかと、セカンドオピニオンを受ける患者さん多い

るようです。

自分自身で病気の情報を集められる患者さんといえば、漠然とした不安や「本当にその治療を受けていいのか」など疑問を持つ方もいるはず。別のドクターの意見を聞いてみたいと考えるのは当然だと思えます。自分の病気を理解し、治療に対してより良い選択肢を探る機会として、セカンドオピニオンは認められているのです。

「私に任せておきなさい」とセカンドオピニオンを拒否する昔気質のドクターは、今の時代では、絶滅危惧種ではないでしょうか。

通常の診療とは異なるため、保険適用外で全額自己負担が原則。大学病院などには専門の「セカンドオピニオン外来」もありますが、費用は高めになると思います。

セカンドオピニオン外来ではなくとも、別の開業医の先生に『第2の意見』を求めれば、保険診療外として対応してくれると思います。ただし、より詳しく知りたいのなら、専門分野のドクターがいる、セカンドオピニオン外来のある病院に行くのがいいかもしれません。

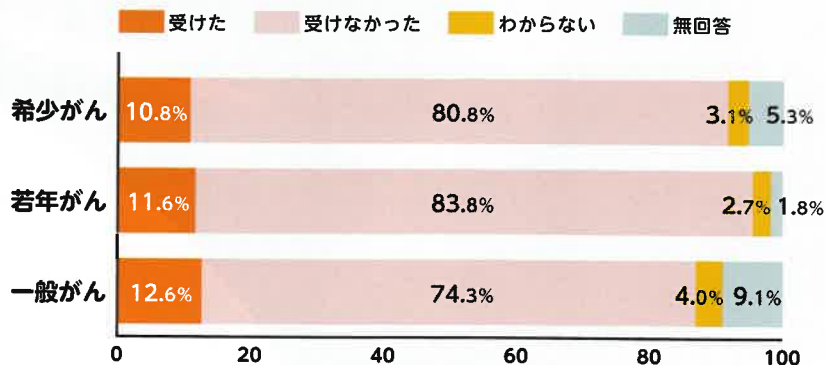
#### 躊躇せず 検査データを入手

セカンドオピニオンを受診する場合、紹介状や検査データを用意してもらってください。言いにくいかもしれませんが、検査データ自体も患者さんに帰属するものですから、問題なく入手できるでしょう。

私の場合、専門である糖尿病の治療に関して、セカンドオピニオンのために紹介状を書いてほしいという依頼は、ほとんどありませんが、他の科でがんの治療や手術をすすめられている方からのご相談を受けることはあります。たとえば「手術の成功率は50%」と言われたら、慎重になりますよね。時間的に余裕があれば、別の先生の意見も聞いてみたいという気持ちは、よく理解できます。

ただ、患者さんが現在の主治医の診断や治療方針に納得できず、自分と同じ考えを持つ医師をさがして、2か所、3か所と別の医療機関を巡る、いわゆる「ドクター・ショッピング」を行うことは、セカンドオピニオン本来の目的から外れてしまうので、気をつけてください。

#### がんの罹患者が、実際に セカンドオピニオンを受けたか？



出典：国立がん研究センター 厚生労働省委託事業「患者体験調査報告書」(令和5年度調査(速報版))

監修

浅海 直  
あさうみ すなお  
(医療法人社団  
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。